

## 二本松市未来戦略会議へのメモ出し

東和地区 関 元弘

二本松市未来戦略会議へ参加させて頂きありがとうございました。議論の過程で提起された、観光、教育、地域振興等に関する委員の皆様のご見識を伺い大変勉強になりました。会議終了に当たり農村部に住む市民として私見を述べさせていただきます。

私は、平成18年に二本松市東和地区へ入植し、以来、有機農業に取り組んでおります。屋敷、行政区、消防団、各種団体での地域の方々との様々な付き合いや活動を通じて、人の温かさ、人が繋がって生きて行くことの大切さ、農業・農村の楽しさ、可能性を知り、「本当の豊かさ」を実感しております。

これまでの常識を覆すような大きな事件等（リーマンショック、東日本大震災等々）を経て、農村での暮らしや生業について、興味を示し、憧れを持つ若者が増えてきているように感じます。このトレンドを受け、農業・農村での自立可能な仕組みと受入体制を作り、しっかりアピールすれば、都市からの人を呼び寄せることは十分に可能だと考えられます。

しかしながら、その一方で、急速に進む高齢化、担い手不足、優良農地の耕作放棄化等々農業・農村の衰退が進み、「本当の豊かさ」を維持していくことに危機感を募らせております。

地域≠生業の場・暮らしの場、地域の発展≠当家の発展となり、地域への帰属意識が著しく低下している状況ですが、これまでの先人が築いてきた蓄積を保ち、更に、次世代に向け新たな蓄積をしていくことは、今を生きる世代の責任であることから、地域=生業の場、地域の発展=当家の発展となるよう次の農村であることが必要と考えております。

## (1) 稼げる農村

- ① 稼げる農業：異業種・異分野と連携する消費を意識した売れるモノづくりをする農業。
- ② 生業づくり：里山、景観、農地等の地域資源を保全管理・利活用する会社を設立し雇用の場を確保する。また、農業の6次化に止まらない様々な生業を地域内に興す。

## (2) チャレンジできる農村

- ① 地域内起業の促進：様々な起業支援体制を整え地域内外の有為な若者を呼び込み、様々なチャレンジをさせ、応援する。
- ② 人材の確保育成：地域興し協力隊の制度を活用し、地方で起業したい若者等に教育、訓練を施し、任期後の起業を支援する。

## (3) 人を育てる農村

- ① 歴史、伝統の教育：地域に住む意味を知り、誇りを持たせるために、地域の歴史、偉人（渡邊 閑哉等）、郷土芸能等についての教育を充実させる。
- ② 山村留学：外部団体と連携し山村留学を実施する。

## (4) 人が集う農村

- ① 癒しの場の提供：都市にはない価値観、空間を活かしたツーリズムの展開。
- ② 第2のふるさとの提供：都市に住む故郷を持たない人々に、何時でも帰れる場所を提供し、地域の応援団、移住予備軍を形成する。

ここに住むことに誇りを持ち、未来に向けチャレンジし続けることが何よりですので、そのような人を育て、環境を整えることが大切だと考えております。